

山口市 文化創造 ビジョン 2020 » 2027

山口市文化創造ビジョン 2020 » 2027

山口市
文化創造
ビジョン
2020 » 2027

2020.3 Yamaguchi City

山口市

はじめに



本市は、平安時代末期の東大寺再建に関わるとともに室町時代に花開いた大内文化、幕末・明治維新をはじめとする重層的な歴史と、豊かな自然が調和する美しい県都であり、市民の皆様の暮らしには、先人たちが多様な交流の中で育み、発展させてきた文化が息づき、まちとしての個性となっています。

この個性を本市の豊かさや文化を発展させる源として、市民の皆様がこのまちに愛着を感じ、心豊かに暮らすための指針、また、交流による新しい文化的価値の創造により、まちが成長していくための指針となる「文化の薫るまち創造ビジョン」を平成21年3月に策定し、歴史や伝統、文化芸術を大切にする心を育み、文化施設や研究・教育機関等と連携した新しい価値の創造に取り組むとともに、教育や観光など他分野における文化的価値を高め、その魅力を国内外に発信することで交流促進につなげる諸施策に取り組んでまいりました。

そのような中、平成30年3月策定の「第二次山口市総合計画」においては、様々な分野において暮らしの質を高め、地域資源の多様性を活用するまちづくりを進めるとともに、多様な個性を有する地域が主体的に連携し、さらなる価値の創造や経済循環を図る対流型のまちづくりを進めることで、本市全体の発展を実現していくまちづくりの方向を掲げたところです。

また、国においては、平成29年に「文化芸術振興基本法」を「文化芸術基本法」に改正し、文化芸術の振興に加え、観光・まちづくり・教育・産業等の文化芸術に関連する分野の施策についても新たに法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の継承・発展並びに創造に向け、活用させていく方針が示されたところです。

こうした流れを踏まえ、このたび策定した「山口市文化創造ビジョン」におきましては、「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」を目指すまちの姿に掲げ、Society5.0※や人生100年時代※を見据えた大きな時代の転換期を迎える中、新しい時代を支える人材の育成や文化的営みによる新たな価値とライフスタイル※の創造に取り組むほか、地域の文化や特色を生かした地域づくりを促進し、地域への誇りと愛着の醸成、文化芸術が生み出すその先の価値の創出を目指して、文化芸術の創造性を他分野へ活用した好循環・好影響のまちづくりに重点的に取り組んでいくことといたしました。

人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められた「令和」という新しい時代の中で、本市におきましては、引き続き、先人たちから受け継がれた文化的な“進取の気風※”の精神を誇りに、市民や地域、関係機関等の皆様との取組や国内外との交流や連携をさらに進め、本市の文化的な価値や個性を継承・発展させ、都市としての価値向上やシビックプライド※の醸成に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と積極的な御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本ビジョンの策定にあたり、貴重な御意見を賜りました「山口市文化振興ビジョン策定委員会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査等に御協力いただきました市民の皆様から感謝申し上げます。

令和2年3月

山口市長 渡辺 純忠

目次

第1章 策定にあたって

1	本市の文化的背景	1
2	文化政策を取り巻く社会環境	2
	(1) 国の動静	2
	(2) 県の動静	3
	(3) 市の動向	3
3	策定の趣旨	4
4	ビジョンの位置づけと計画期間	4
	(1) ビジョンの位置づけ	4
	(2) 計画期間	4
5	市民意識とこれまでの文化施策	5
	(1) 市民意識について	5
	(2) これまでの文化施策について	7

第2章 山口市における文化施策の基本的方向

1	目指すまちの姿	14
2	施策の基本的方向	16
	(1) 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち	16
	(2) 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動が生まれるまち	17
	(3) 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち	18
	(4) まちや人の個性が耀き、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち	19

第3章 具体的な取組

1	西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち	21
	(1) 景観や歴史、郷土文化等の保存・継承	21
	(2) 魅力あふれる地域資源の活用	22
2	暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動が生まれるまち	23
	(1) あらゆる人々による文化芸術活動の推進	23
	(2) 暮らしに彩りを添える文化的で潤いのある環境づくり	24
3	個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち	25
	(1) 文化芸術を体験する機会の充実	25
	(2) 文化芸術を担う人材の育成	26

4	まちや人の個性が耀き、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち …	27
	(1) 個性あふれる文化芸術による価値の創造 ……………	27
	(2) 国内外との交流の促進 ……………	28
	(3) 国内外に向けた情報発信力の強化 ……………	29
	(4) 他分野と連携した好循環・好影響のまちづくりを目指して …	30
	(5) 文化芸術が生み出すその先の価値の創出を目指して ………	31

第4章 重点プロジェクト事業

1	地域の耀きプロジェクト……………	32
2	次世代の芽吹きプロジェクト……………	34
	(1) 次代を担う人づくり ……………	34
	① 歴史や伝統を未来へつなぐ人づくり	
	② 創造性豊かな人づくり	
	③ 新進芸術家の育成	
	(2) 創造的な暮らしを楽しむ環境づくり ……………	36
3	賑わい創出に向けた文化的価値の向上プロジェクト……………	38

第5章 推進にあたって

1	取組への視点……………	40
2	主体別の役割……………	42

参考資料

文化政策に関わりのある施設 ……………	45
山口市文化振興ビジョン検討懇話会設置要綱 ……………	46
山口市文化振興ビジョン検討懇話会委員名簿 ……………	48
山口市文化振興ビジョン検討懇話会専門部会委員名簿 ……………	48
策定経過 ……………	49
用語説明 ……………	50



第 1 章

策定にあたって

1 本市の文化的背景

本市には、美しい自然が今なお残るとともに、華やかな大内文化や、幕末・明治維新の躍動も、こうした自然を背景に、重層的な歴史として伝えられており、今なお新しい文化芸術を創造し続ける原動力となっています。

時代を遡ると、平安時代には阿東地域に蔵目喜などの鉱山が開山されるとともに、官道山陽道沿いに国家の貨幣を造る周防鑄銭司（すおうのじゅせんじ）が設置され、200年近く操業を続けました。その後、東大寺の再建を任された重源上人が佐波川流域の徳地地域を中心に用材の切り出し（杣（そま）出し※）を行うなど、恵まれた資源を生かした開発が進みました。

室町時代、山口を領国の本拠としてまちづくりを行った大内氏は、戦（いくさ）や政（まつりごと）に長けているだけでなく、文化をこよなく愛し、京や大陸の最先端の文化を積極的に取り入れ、後に「大内文化」と呼ばれる独自の文化を育みました。その大内氏をたより、山口を訪れた画僧雪舟や連歌師宗祇をはじめとした文化人や公家、僧侶、さらにはサビエルの宣教活動をも、大内氏は寛容な心で受け入れました。

大内氏の活動範囲は国内に留まらず、明王朝、朝鮮王朝など海外との交流も積極的に進めました。その頃、小郡には領国から届けられる年貢の一部を管理する蔵敷※が形成され、経済・交通の要衝となりました。また交易品には得地紙（徳地和紙）など、地産の品も多く用いられました。

大内氏滅亡後、山口は毛利氏の治めるところとなり、江戸時代全般を通じて瀬戸内の小郡、名田島や嘉川地域では開作（新田開発）が進められました。また、阿知須浦をはじめ山口湾における廻船業や、秋穂地域での塩田経営も盛んに行われ、藩財政を支える大きな役割を果たしました。

今からおよそ150年前の幕末、長州藩の攘夷※実行に伴い藩庁の所在地となった山口は、明治維新の策源地として、時代の変革を牽引する地となります。そして、廃藩置県により藩庁は県庁へと役割を変え、山口は県庁所在都市となりました。このように幾つもの時代を経て、先人が大切に守り、受け継がれてきた伝統や文化は、それぞれの時代の中で、人々の交流や多様な周辺環境との融合により、幾重にも重なり合いながら、より深みを増し、進化を遂げてきました。

そして今日、私たちは、市民文化の殿堂である山口市民会館、近代詩人中原中也を顕彰・研究する中原中也記念館、進化し続けるアートセンターである山口情報芸術センター（以下、「YCAM」という。）をはじめとした文化施設を中心に、市民とともに、新たな文化芸術の創造に取り組んでいます。

2 文化政策を取り巻く社会環境

(1) 国の動静

○文化芸術基本法 平成29年6月改正

文化芸術そのものの振興に加え、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など幅広い関連分野の施策を新たに法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造につなげていくことの重要性が明らかにされました。法律の名称も「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」に改められました。

○文化芸術推進基本計画（第1期） 平成30年3月 閣議決定

今後5年間の文化芸術政策の基本的な方向性として、6つの戦略が定められました。

- ①文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実
- ②文化芸術に対する効果的な投資とイノベーション※の実現
- ③国際文化交流・協力の推進と文化芸術を通じた相互理解・国家ブランディング※への貢献
- ④多様な価値観の形成と包摂的環境の推進による社会的価値の醸成
- ⑤多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成
- ⑥地域の連携・協働※を推進するプラットフォーム※の形成

○障害者による文化芸術活動の推進に関する法律 平成30年6月施行

障がいのある人の、文化芸術活動の幅広い促進を目的とした法律が定められました。

○文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律 平成30年6月改正

文化行政全体としての一体性やまちづくり等に関する事務との関連性を考慮し、教育委員会が所管する文化財保護の事務を、条例により地方公共団体の長が担当できるようになりました。

○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催 令和2年

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、日本の文化や魅力を世界に示し、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会であることから、「日本博」をはじめとする文化プログラム等の活用により、国と全国の自治体、芸術家が連携し、地域文化の体験等に係る取組が全国各地で展開されることとなりました。

(2) 県の動静

○やまぐち文化芸術振興プラン（第2次）平成30年11月改定

「多様な連携のもと、未来につなぐ やまぐちの文化力」を基本目標に、観光等の関連分野、民間等の関連機関との多様な連携の推進や、連携が生み出す力を、交流人口の拡大、文化力のさらなる充実・発展に活用し、山口県の文化芸術を次世代に継承することが謳われています。

(3) 市の動向

○「第二次山口市総合計画」 平成30年3月策定

「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」を将来都市像に掲げ、広大な市域を有する本市の自然、歴史、文化、産業、まち、人材などの地域資源の多様性を本市の豊かさや発展の源として、これらを生かしていくまちづくりを進めます。また、多様な個性を有する各地域が主体的に連携し、多様な「人、モノ、資金、情報」が活発に交流することで、更なる価値創造や経済循環を図る対流型のまちづくりを進め、都市部も農山村も共に発展していくという、まちづくりの方向性を明確にしました。

○「山口ゆめ回廊博覧会」の開催 令和3年

山口ゆめ回廊博覧会は、山口県央連携都市圏域（山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町）の各市町に主会場を置き、圏域の美しい伝統・文化や自然などを幅広くアートとして捉え、周遊を促進するオープンエリア※型の博覧会として開催するものです。博覧会を令和3年（2021年）7月から12月に、プレ事業を令和2年（2020年）7月から12月に実施する予定で、大都市圏や、福岡・広島などの近隣都市圏をターゲットとするとともに、今後の訪日外国人旅行者の増加も見据えた取組を推進します。



3 策定の趣旨

本市においては、平成21年3月に「文化の薫るまち 創造ビジョン（以下、前ビジョン）」を策定しました。策定から10年が経過する中、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。

国においては、先端技術を産業のみならず社会生活の様々な場面で活用する取組が進められており、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会「Society5.0」、いわゆる超スマート社会が、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されています。今後、こうした先端技術による社会の変革（イノベーション）を通じて、一人ひとりが快適で活躍できる社会、いわゆる人間中心の社会になるものと考えられています。

また、国内外では、文化芸術の創造性を生かして、地域の特性に応じた優れた取組を展開し、新たな価値の創出や暮らしの質の向上、産業の振興等を目指す「創造都市※」の取組が注目されています。

本市においては、こうした社会環境の変化や文化芸術の有する新たな可能性を踏まえ、豊かな自然や長い歴史に育まれた文化や、自然と調和したまちの景観など、山口にしかない魅力を生かし、市民や地域、文化施設等との連携・協働により、まちづくりの根幹を成す、人や文化、豊かな暮らしを育むことを目的として、本ビジョンを策定するものです。

4 ビジョンの位置づけと計画期間

（1）ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第二次山口市総合計画を上位計画とし、同計画に示す将来都市像「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」の実現に向け、市民、各種団体及び行政の役割を明確にするとともに、文化政策と他の関連政策を包括的に推進していく上での指針として策定するものです。

（2）計画期間

令和9年度（2027年度）を目標年次とし、令和2年度から令和9年度までの8か年を計画の推進期間とします。

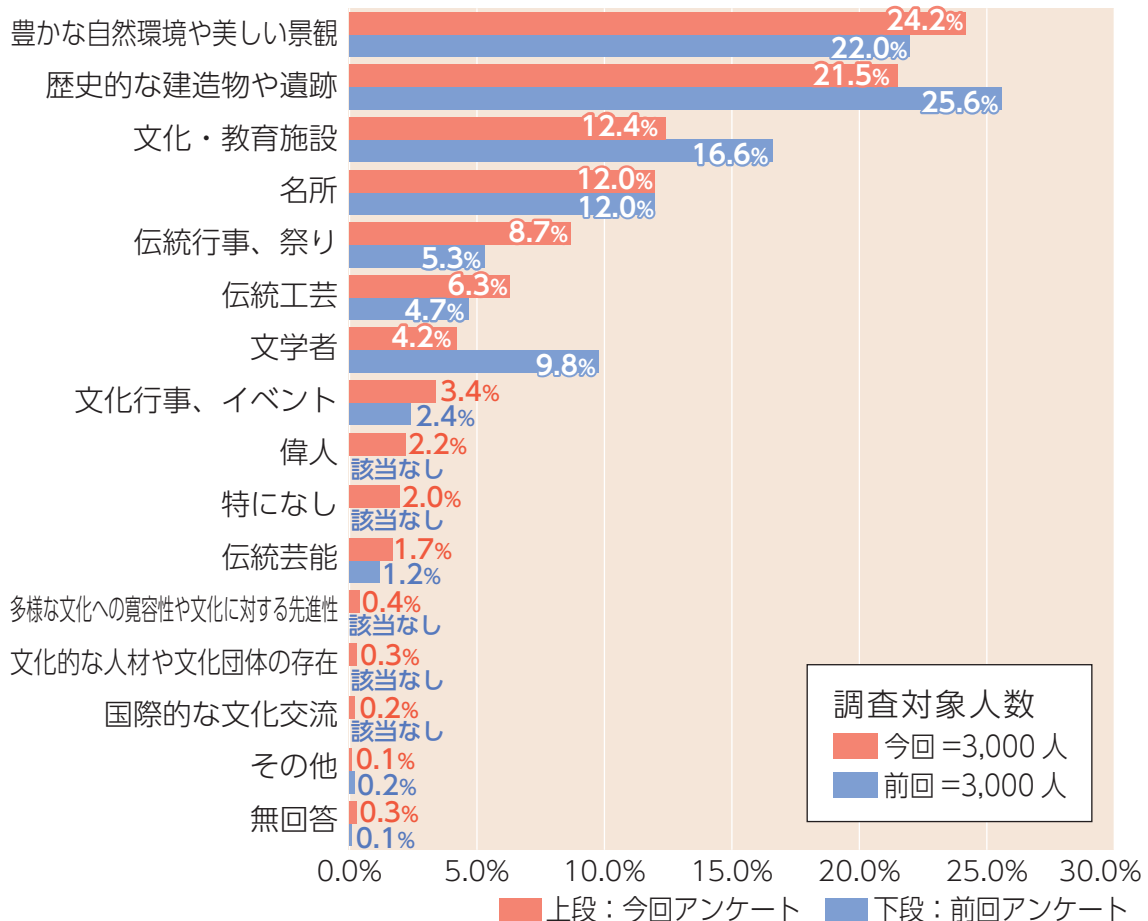
5 市民意識とこれまでの文化施策

(1) 市民意識について

本ビジョンの策定にあたり、文化に対する市民意識を把握し、本市の文化施策推進の基礎資料とするため、「文化に関するアンケート調査」を平成29年11月に実施しました。

※前ビジョン策定時の、平成20年4月に実施した「山口市の文化によるまちづくりに関する市民アンケート調査」と同一の質問項目については、調査結果を対比し記載しています。

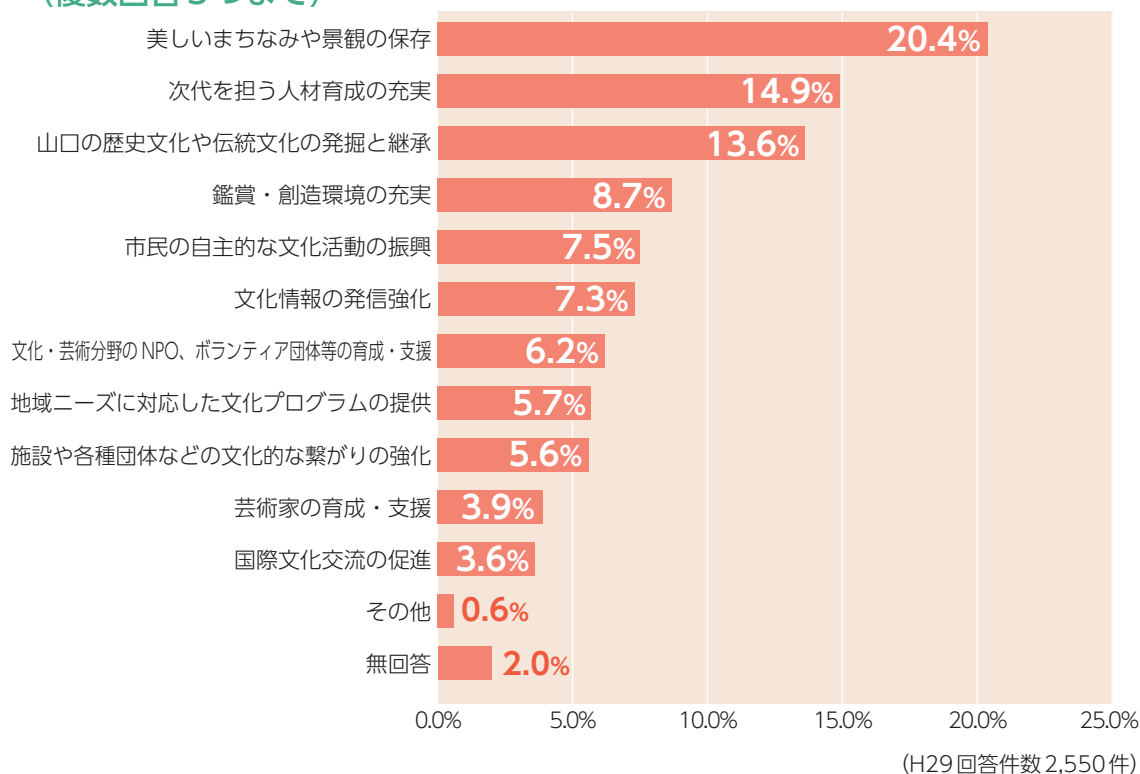
◆本市の文化的・創造的な特徴は？（複数回答3つまで）



(H29回答人数 1,086 人、回収率 36.2% H20回答人数 1,126 人、回収率 37.5%)

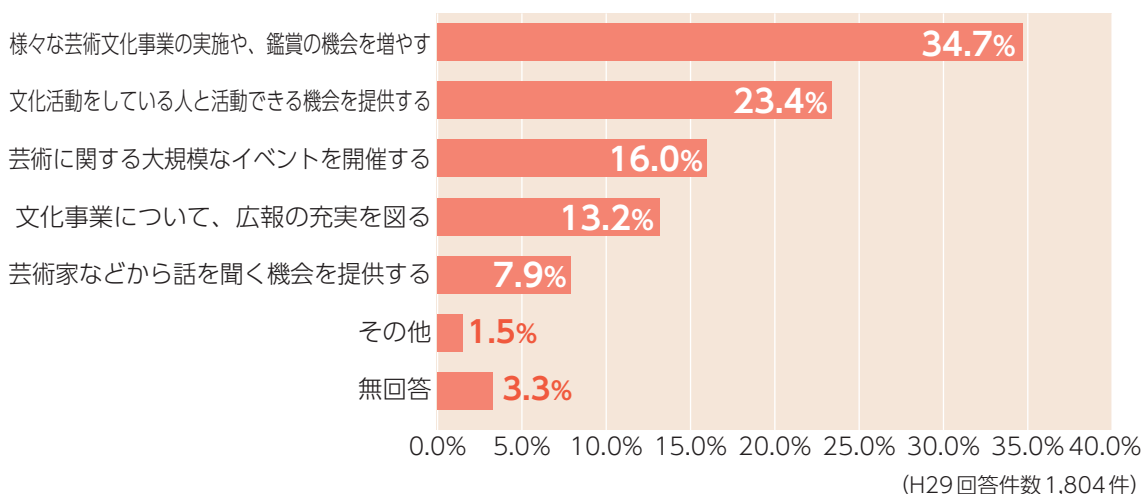
「豊かな自然環境や美しい景観」という回答が一番多く、次いで「歴史的な建造物や遺跡」「文化・教育施設」となっています。前回アンケートでも同様に「歴史的な建造物や遺跡」「豊かな自然環境や美しい景観」「文化・教育施設」の3つが上位を占めています。

◆文化的・創造的なまちづくりを更に進めるために重視すべき取組は？
(複数回答3つまで)



「美しいまちなみや景観の保存」が一番多く、次いで、「次代を担う人材育成の充実」「山口の歴史文化や伝統文化の発掘と継承」と続いています。

◆人材育成に向けて、重視すべき取組は？(複数回答2つまで)



「様々な芸術文化事業の実施や、鑑賞の機会を増やす」が一番多く、次いで、「文化活動をする人と活動できる機会を提供する」「芸術に関する大規模なイベントを開催する」の順となっています。

(2) これまでの文化施策について

本市は、前ビジョンにおいて、「歴史の中に息づく国際性豊かな創造文化都市 やまぐち」を目指す文化的なまちの姿として、次の5つの基本的方向性のもと、その実現に向けて取り組みました。

- (1) 自然に恵まれた、心豊かな美しいまちをめざして
- (2) 歴史、伝統文化が息づくまちをめざして
- (3) 芸術を創造するしなやかで包容力のあるまちをめざして
- (4) 魅力あふれる文化を発信する活力あるまちをめざして
- (5) 文化がつなぐ産業と交流のまちをめざして

また、具体化に向けて、次の9つの基本的な取組を推進しました。

① 文化的景観の保全・形成

美しい景観を保全し、整備・形成することで、地域の住民の財産として将来まで受け継ぐことのできる、文化性あふれる生活環境づくりや、自然環境に配慮した景観形成に努めました。

◆主な取組

- ・美しい景観の形成
- ・歴史的景観の保全
- ・水辺空間の創出
(一の坂川交通交流広場の整備など)
- ・公園・緑地の整備
(亀山公園山頂広場の整備など)
- ・天然記念物の保護 (ゲンジボタルの保護など)
- ・まちなみの一体性の強化
(町屋の再生・活用など)



▲亀山公園山頂広場の整備

◆課題

- ・高齢化の進展等を要因としたまちの空洞化が進む中、歴史的まちなみの保存・継承について、地域と一体となり検討を進めていく必要があります。
- ・市民の景観に対する意識のさらなる醸成を図り、美しい自然や歴史的まちなみを次代へ引き継いでいく必要があります。

② 歴史、伝統の保存・継承

歴史や伝統文化の多様性に価値を置き、郷土研究の推進を図るとともに、歴史や伝統文化を学んだり、体験できる機会の提供に努めました。

◆主な取組

- ・ 歴史を学ぶ機会の充実（講演会やまち歩き等の開催）
- ・ 伝統文化に触れる機会の充実（山口ふるさと伝承総合センターでの体験事業など）
- ・ 郷土研究の推進（市史「史料編」の刊行、幕末維新ガイドブックの刊行など）
- ・ 文化財の保存・整備と活用（史跡大内氏遺跡館跡、名田島新開作南蛮樋等の整備、周防鋳銭司跡の調査など）
- ・ 未指定文化財の調査（常栄寺の美術工芸品調査など）
- ・ 郷土芸能の伝承（山口鷲流狂言、徳地人形浄瑠璃など）
- ・ 伝統工芸の振興（伝統工芸事業者が抱える課題解決に向けた取組）



▲地福のトイトイ（阿東）

◆課題

- ・ 文化財の積極的な活用や歴史文化資源の保存・継承に向けたデータベース※化を進めていく必要があります。
- ・ 郷土芸能などの地域の歴史文化資源を後世に引き継ぐため、子どものころから、地域の文化に触れるとともに、守り、生かしていく仕組みづくりが必要となっています。
- ・ 伝統工芸については、売上の減少や担い手の高齢化、後継者不足により、事業者数が減少していることから、中長期的な視点を持って、市民が伝統工芸に触れる機会を創出し、愛着を育む取組を進めるなど、地域の伝統工芸の振興、後継者の育成につなげていく必要があります。



▲小古郷地神楽（阿知須）



▲徳地和紙の手漉き作業

③ 市民文化活動の充実と支援



市民の自主的な文化活動を支援し、また文化団体やボランティアの活動機会の充実を図るとともに、質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、鑑賞、参加機会の充実を図りました。

◀山口市民文化祭

◆主な取組

- ・鑑賞・参加機会の充実（市民文化祭、市美術展覧会の開催など）
- ・市民の自主的な文化活動の推進、支援（市民文化活動支援事業）
- ・質の高い芸術文化に触れる機会の提供
- ・文化団体の育成、支援
- ・文化活動における生涯学習の推進（地域交流センターにおける生涯学習活動の推進、市民大学講座、文化講演会の実施）

◆課題

- ・高齢化に伴い文化団体の会員数は減少傾向にあるため、新たな会員確保に向け、文化芸術に興味を持つ市民の裾野を広げ、活動を活性化していく取組が必要です。
- ・文化芸術鑑賞や文化芸術活動については、鑑賞者や参加者に、地域や世代の偏りがあります。市民にとって「鑑賞しやすい」・「参加しやすい」仕掛けづくりが必要です。
- ・子どもや高齢者、障がいのある人など、あらゆる人々が文化芸術に触れることのできる環境づくりが必要です。
- ・設備等の老朽化が進んでいる文化施設においては、適正な維持管理・整備に努めていく必要があります。



▲いぐらの館コンサート（阿知須）



▲山口市民文化祭での団体のコラボレーション

④ 次代を担うひとづくり

アーティストに優しいまちづくりを推進するとともに、創造性を育み、豊かな人間性を持った人材を育成するため、アーティストの活動支援、アーティストと地域社会を結ぶワークショップ※や児童・生徒等が多様な文化芸術に触れるための支援等の充実を図りました。

◆主な取組

- ・芸術創造活動の推進、支援
(文化芸術振興賞賜金の交付ほか)
- ・児童、生徒等への芸術教育の充実
(ぼうしの詩人賞ほか)
- ・アーティストの発掘、育成支援
(芸術家育成支援事業)
- ・教育機関等との連携（未来の山口の授業ほか）
- ・美術館、博物館、図書館、歴史資料館等と連携した教育普及



▲空の下の朗読会（中原中也記念館）

◆課題

- ・教育機関や美術館・博物館・図書館等の連携を強化し、効果的に事業を実施していく必要があります。
- ・コミュニケーション能力や多様な文化を受け入れる力など、グローバル化※に対応した人材育成に取り組んでいく必要があります。

⑤ 新しい芸術文化の創造

芸術創造活動に触れる環境づくりを進めるとともに、実験的・革新的な新しい芸術文化の創造に取り組みました。



▲山口文化協会創立50周年記念事業 創作公演「BASARA」

◆主な取組

- ・芸術文化創造活動の場づくり、環境整備
- ・メディア※を活用した芸術文化の創造
- ・異分野・異文化との融合による新たな芸術文化の創造
- ・オリジナル作品の制作

◆課題

- ・本市のさらなる文化の創造に向けて、市民会館をはじめとした文化芸術活動拠点の整備・充実を図っていく必要があります。
- ・新しい芸術表現を試みる創造的作品については、市民の理解を深めるための分かりやすい広報活動が必要です。
- ・先端技術をその他の領域へ応用する場合、効果的に事業を実施していく体制づくりや継続的な検証が必要です。

⑥ 世界に向けた魅力ある情報の発信

本市の個性である文化資源を活用した情報を国内外へ発信するとともに、観光政策と連携した効果的な情報発信に取り組みました。



▲山口七夕ちょうちんまつり

◆主な取組

- ・文化情報と観光情報の連動による情報発信（市や各文化施設のホームページ、SNS※、観光情報サイト等の活用と案内サイン※等の多言語化）
- ・情報発信の戦略化（留学生へのインバウンド※観光大使任命による本市固有文化の母国語での情報発信）
- ・アート作品の海外巡回

◆課題

- ・急増するインバウンド等に向けた情報発信が重要であることから、引き続き、WEB※や案内サイン等の多言語化を進める必要があります。
- ・観光や移住・定住など他分野と連携した効果的かつ戦略的な情報発信方策を検討する必要があります。

⑦ 国内外の交流の推進とネットワークづくり



情報や文化をキーワードに、創造都市とのネットワークづくりの推進など、様々な交流を通じて、国内外の文化交流を促進するとともに、観光政策による交流人口の増加を進めました。

◀友好都市済南市との国際交流

◆主な取組

- ・ 姉妹・友好都市等との文化交流の推進
- ・ 大内文化を生かした交流の促進（日本のクリスマスは山口からなど）
- ・ 国内外の文化施設、企業、アーティスト等との連携、協力（コロガル公園の他市での展開など）
- ・ アーティストと市民の交流の場づくり（芸術家育成支援事業）
- ・ 人材ネットワークの構築（やまぐち路傍塾）
- ・ 観光面と一体的な交流の促進（全国街道交流会議の開催など）



▲第9回全国街道交流会議 萩往還・山口大会

◆課題

- ・ 国内外の自治体等とのネットワーク構築にかかる取組を戦略的に進めていく必要があります。
- ・ グローバル化の進展に伴い、より多くの市民が関わることを進める国際交流を進めていく必要があります。
- ・ 市内のアーティストの活動を市民が育み、アーティストが市民の創造活動を支援する仕組みの構築が必要です。

⑧ 文化資源を生かした魅力ある地域づくりの推進

地域の魅力や優位性を発見し、市民の誇りとなる地域づくり・まちづくりを進めるとともに、市民が主体的に地域づくりにかかわる人材を育む仕組みづくりに取り組みました。

◆主な取組

- ・ 大内文化を生かしたまちづくり（山口ゆらめき回廊、大殿ひなさんぽなど）
- ・ 文化遺産を生かしたまちづくり（「萩往還」や「肥中街道」など歴史の道の整備と活用、岸見の石風呂の活用、十朋亭周辺整備など）
- ・ 文学者、文化人を生かしたまちづくり（中原中也をテーマとした交流事業、嘉村礒多生家「帰郷庵」の整備、郷土文学者の顕彰など）
- ・ アートと地域をつなぐ事業の推進（山口市菜香亭市民ギャラリー※、廻船のまちアートギャラリーなど）
- ・ 地域資源の発掘と再評価（明治維新150年に向けた地域資源の掘り起こしと活用、お大師まいりの充実に向けたプロジェクト）



▲嘉村礒多生家「帰郷庵」（仁保）



▲十朋亭維新館



▲廻船のまちアートギャラリー（阿知須）

◆課題

- ・地域文化を牽引する人材の育成や、まちの個性を生かした賑わいの創出、交流人口の拡大につながる取組を進めていく必要があります。
- ・本市を代表する歴史文化「大内文化」と、その精神性“進取の気風”を、より分かりやすく市内外へ伝える取組が必要です。

⑨ 新たな芸術文化の創造による新産業の創出

新たな芸術文化の創造による新産業の創出に向けて、企業や大学等の高等教育機関と連携した共同開発や共同研究活動などに取り組みました。

◆主な取組

- ・産学官の相互連携（YCAMの研究開発など）
- ・新しい芸術表現の研究（「バンブーバイク」の製作など）



▲世界ヴィレッジデザイン会議（YCAM）

◆課題

- ・これまで蓄積してきた国内外のネットワーク及び研究成果を活用し、新産業の創出に向けた具体的な取組が必要です。
- ・近年、経済産業省が「デザイン経営」宣言を発表するなど、デザイン思考やアート思考を産業や事業の創出に結びつけるよう提言がなされています。今後は、芸術文化の創造性とビジネス人材の育成を結び付けるなど新たなイノベーション創出への支援が必要です。



第 2 章

山口市における 文化施策の基本的方向

1 目指すまちの姿

個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～

時代は今、超情報化社会への突入や働き方の多様化など、暮らしの変革期を迎え、人々のライフスタイルや価値観が変わる中で、健康や精神的な豊かさなど生活の質を大切にする人々が増えています。

また、これまで経験したことのない速さで少子高齢化が進むとともに、「Society 5.0」など国の目指すべき未来社会の姿が提唱される中で、本市の歴史や文化芸術のあるべき姿を考えると、それらに新たな風を吹き込む、交流と連携による創造的な取組などにより、次世代を育みながら、未来へつないでいくことが求められています。

こうした中で、本市が有する個性を光り耀かせるためには、感性や創造性が磨かれる豊かな環境の中で、市民一人ひとりが暮らしに息づいている歴史や文化、自然の素晴らしさに気づき、学ぶことを通して、まちに誇りと愛着を持つことにより、地域資源を磨き上げ、創造性あふれる人材を育みながら、個の魅力を高める必要があります。

また、市民の暮らしの質や豊かさを高めていくために、テクノロジー※時代の潮流に乗りながらも、豊かな自然や歴史、文化が調和するまちの中で、人が中心の、文化的で潤いのある暮らしを育むまちづくりを進めていく必要があります。

本ビジョンにおいては、目指すまちの姿を「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」とし、先人から受け継いだ歴史や伝統、そして美しい景観を確実に未来に紡ぐとともに、恵まれた自然環境の中で、文化的な営みによる新たな価値とライフスタイルを創造し、本市の様々な課題解決に向けて生かしていくことにより、次の世代に誇れるまちの姿をカタチにしていきます。

本ビジョンの目指すまちの姿である「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先と文化と暮らしを育むまち～」を実現するため、ここでは、取組のイメージについて、次のとおり整理しています。

個が耀き（個…人、地域、歴史、自然、景観、施設、本市の個性溢れる文化など）

- 1) 市民や地域の耀きを生み出す場の創出、活動支援に取り組みます。
- 2) 市民やアーティストなどが交流し、人々が耀くまちづくりを進めます。
- 3) 本市の個性溢れる文化を守り、育てるとともに、新たな芸術表現などを創造します。

次世代が芽吹く

- 1) 長い歴史の中で受け継がれた郷土芸能や伝統文化の後継者、個性溢れる文化など本市の文化的価値を支える人、担う人を育成します。
- 2) 「Society 5.0」に向けた新しい文化的な暮らしを創造します。
- 3) 多様な交流により新たな文化的価値を創造します。

次世代のイメージ

- 1) 人材：本市固有の文化を次代につなぐ人
創造性豊かな人
国際性豊かな人
専門性の高い人
文化を支える人
- 2) ライフスタイル：文化を楽しむ暮らし、新しい価値による暮らし方
- 3) 文化や価値の創造：多様な交流の中で育まれた新しい文化や価値

創造文化都市やまぐち

文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に向けた取組や、好循環・好影響のまちづくりを進めます。

～その先の文化と暮らしを育むまち～

テクノロジーと自然、歴史・文化が調和した、多様な交流が生まれるまちの中で、人が中心の文化的な潤いに満ちた豊かな暮らしを育みます。

その先の文化と暮らしのイメージ

- 1) AI※化やロボット化の進展により変わる少し先の未来
- 2) 先端テクノロジーと自然、歴史、文化が調和した潤いに満ちた暮らし
- 3) 人生のセカンドステージ※における潤いのある豊かな暮らし

2 施策の基本的方向

本市においては、「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」を目指す文化的なまちの姿として、4つの基本的方向性をもとに、その実現に向けて取り組めます。

（1）西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち

本市は、積み重ねてきた歴史や文化、そして美しいまちなみが、四季折々の自然と調和する美しいまちです。山や海、川などの美しい自然や、大切に受け継がれてきた歴史や伝統を背景とした新たな出会いと交流の中で、人々がつながり、祭りや伝統行事などの郷土文化を創造し、まちの個性として、今日まで大切に継承してきました。

時を重ねても、故郷の自然やまちなみ、祭りや郷土芸能の風景は、音や、まちの香りとともに、人々の記憶の中に刻み込まれています。

このように、先人が守り続けた美しい自然や景観、文化財などの地域資源や歴史資源の保存・継承、活用を促進し、さらに資源の価値や地域の魅力を高めながら、地域の誇りの醸成、歴史や文化、自然が調和するまちづくりを進めます。



▲国宝瑠璃光寺五重塔

(2) 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動が生まれるまち

成長社会から成熟社会※への転換や人生100年時代を見据え、人々の考え方が「物質的な豊かさ」から「精神的な豊かさ」へ変化を見せる中、文化的景観の整備や空間の創出など、潤いのある環境づくりは、その必要性を増しています。

本市では、華道や茶道などの生活文化をはじめ、大内塗や山口萩焼などの伝統工芸や外郎などの食文化が、人々の暮らしの中に溶け込み、今日まで受け継がれてきました。こうした暮らしの文化や市内のアーティスト等が創り出す文化芸術を、積極的に日々の生活の中に取り入れ、生かしていくことは、人にやすらぎや癒しを与えるとともに、地場産業の振興や今後のインバウンド需要の取り込みにおいても重要な意味を持っています。

私たちは暮らしの中に息づいた文化をより豊かなものにするとともに、子どもから高齢者までの幅広い世代や障がいを持つ人、子育て世代など、あらゆる人々の身近な学習機会や創作活動の場の充実を図り、多彩な文化芸術活動がうまれるまちづくりを目指します。



▲床の間を彩る生け花



▲子どもたちが描いた大内人形



▲山口萩焼体験工房



▲アートマーケットを楽しむ人々（春日山フェリア）

(3) 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち

かつて長州藩では、多くの若者に教育の門戸を広げたことにより、幕末・明治維新において、強い志とエネルギーを持った次代を牽引する優秀な人材を輩出しました。また、教育の重要性を自ら学んだ維新の志士たちは、教育の担い手となり、未来の日本を牽引する人材を育てていく教育の好循環を生み出しました。

本市においては、文化施設や学校、地域等が互いに連携し、あらゆる人々が文化芸術活動に触れ、学び、考える環境を整備するとともに、成長段階に応じた遊びや学びの活動を行う中で、新たに生み出される表現や学びを促進し、次代の文化芸術を担う創造力豊かな感性と地域への愛着や誇りを醸成しながら、個性豊かな文化を未来へつなぐ人材の育成を図ります。

また、市民がアーティストの文化芸術活動を支え、アーティストの文化芸術活動が市民の創造力を育む仕組みを構築し、文化芸術による好循環・好影響を生み出す人づくりを目指します。



▲芸術家育成支援事業で実施したワークショップ

（４）まちや人の個性が耀き、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち

成熟社会において、人々が健康で文化的な質の高い暮らしを願う中、文化による創造性を観光やまちづくり、産業、教育など他分野へ活用することが期待されています。

グローバル社会にあって、文化が有する創造性は、新たな賑わいや交流の創出、移住・定住などの地域の活性化につながるポテンシャル※を有していることから、本市の個性をさらに磨き上げ、新たな価値を創出することはもちろん、国内外の都市や大学、研究機関、企業等との交流の促進や情報発信の強化などにより、まちの魅力とブランド※力を高める取組を進めます。

また、文化芸術を基軸とした施設や他分野との横断的・多面的な取組や広域的な交流による連携・協業を進めるとともに、近年増加するインバウンドに対する本市の文化的魅力の情報発信など観光振興への取組を進めることで、文化芸術による新たな価値の創造に取り組みます。

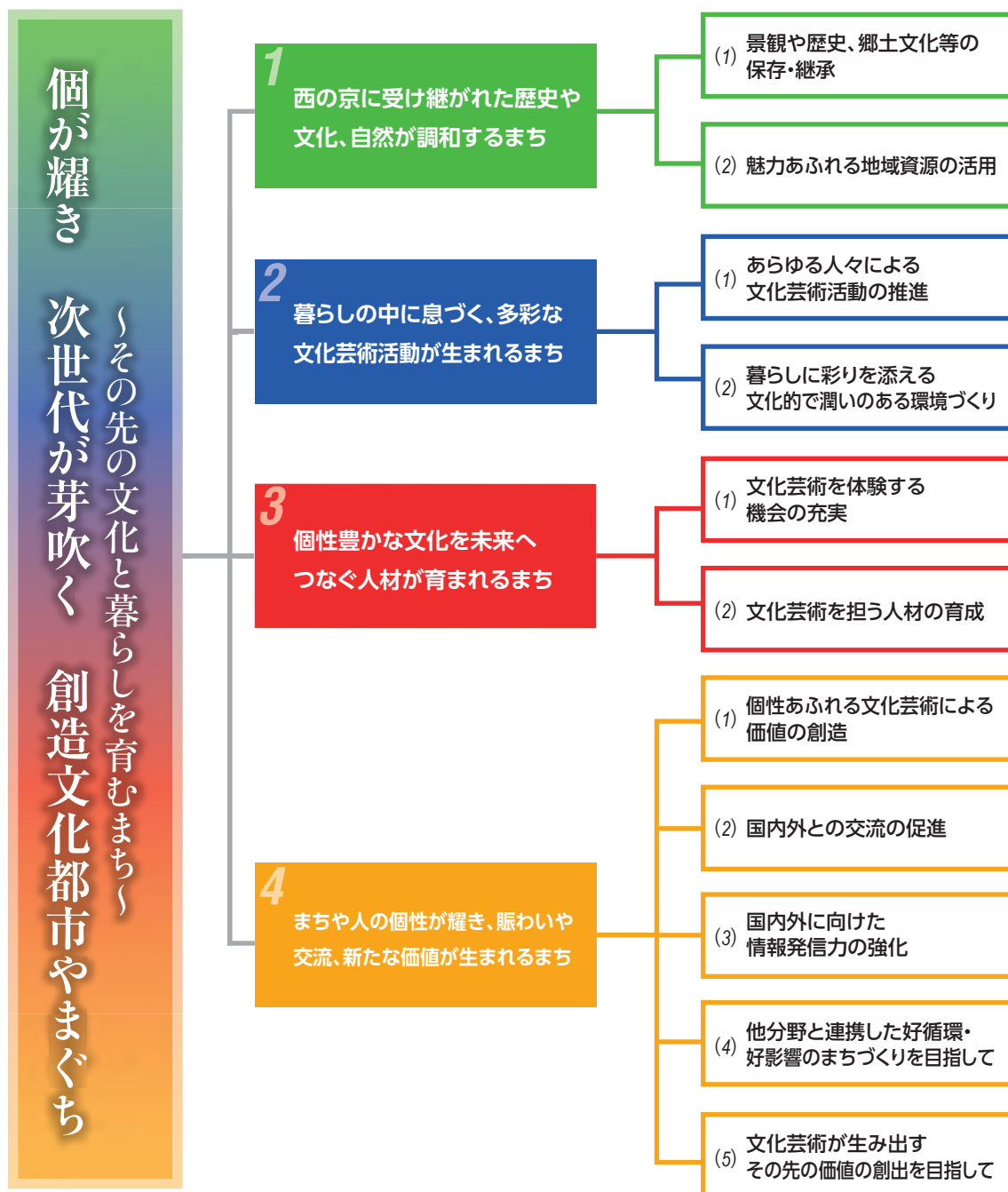


▲着物でイベントを盛り上げる仕掛けづくり

第 3 章

具体的な取組

本章では、前章 2 で示した 4 つの施策の基本的方向性を具体化するための取組について示します。



1 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち

(1) 景観や歴史、郷土文化等の保存・継承

長い年月を経て、脈々と受け継がれた美しい景観や重層的な歴史、郷土文化等を一人ひとりが大切に育み、次の世代に継承していきます。

- 美しい景観、歴史的景観の保全・形成
- 文化財の把握と保存・継承
- 郷土芸能や伝統芸能、方言の保存・継承
- 歴史や郷土文化を学ぶ機会の充実



▲日本ジオパークに指定された阿東地域(長門峡)



▲常徳寺庭園の整備(阿東)



▲風水探訪会

(2) 魅力あふれる地域資源の活用

本市の個性あふれる歴史や文化をはじめとした地域資源の掘り起こしを進めるとともに、積極的な活用を図ることで、地域への誇りと愛着を育んでいきます。

- 地域の文化や特色を生かした地域づくりの推進
- 地域資源の掘り起こしと活用
- 文化財等のデータベース化
- 郷土研究の推進



▲長沢池での巨大な砂絵づくり(鑄銭司)



▲常栄寺雪舟庭のライトアップ



▲山口市歴史叢書と山口市史「史料編」

2 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動が生まれるまち

(1) あらゆる人々による文化芸術活動の推進

大学、関係機関、地域、団体等との連携や文化関連施設の環境整備を進めるとともに、子どもから大人まで、また、障がいをもつ人や子育て世代、高齢者など、あらゆる人々の文化芸術活動や学習機会の充実を図ります。

- 市民の自主的な文化活動の促進・支援
- 文化活動の発表の場の提供
- 文化団体の育成と活動支援
- あらゆる人が文化芸術につながる場づくり
- 障がいのある人、子育て世代、高齢者等の文化芸術活動の充実
- 文化活動を通じた生涯学習の推進
- 文化芸術を生かした市民の主体的な地域づくり活動の促進
- 県立美術館、博物館、大学、図書館等と連携した学習機会の充実
- 文化施設の効果的・効率的な運営と環境整備
- 山口市産業交流拠点施設の文化面での活用



▲あらゆる世代がモデルで参加したニットのファッションショー（山口文化協会創立50周年記念事業）

(2) 暮らしに彩りを添える文化的で潤いのある環境づくり

文化を楽しむ暮らしは、人々の生活をより豊かにします。都市空間や公共施設、家庭など日々の暮らしの中に文化芸術を取り入れることにより、市民一人ひとりの生活の質の向上やまちの魅力を高めることで、文化的で潤いのある環境づくりを進めます。

- 景観に配慮したまちづくり
- 公共施設における文化的空間の創出
- 生活文化や食文化など暮らしの文化の振興
- 伝統工芸品やアート作品の活用促進



▲緑あふれる空間を演出する JR 新山口駅南北自由通路



▲山口外郎



▲現代のライフスタイルにあわせた大内人形「Ouchi夫婦」

3 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち

(1) 文化芸術を体験する機会の充実

本市には、暮らしに身近な地域交流センターや学校から、図書館・美術館・博物館や文学館・資料館、さらには、最先端のアートセンターまで多様な学びと鑑賞の場があります。

これらの場や地域資源を活用し、子どもたちから、多様な文化芸術に触れる機会を充実させることにより、家庭や学校、地域の中で一人ひとりの感性や創造性を育んでいきます。

- 鑑賞・参加・体験機会の充実
- 質の高い文化芸術に触れる機会の提供
- 文化施設等による文化芸術活動への参加、発表機会の提供
- 文化施設による教育委員会等と連携したアウトリーチ活動※の充実



▲チェンパロコンサート（C・S赤れんが）



▲県立美術館と連携したコンサート

(2) 文化芸術を担う人材の育成

本市の個性的な文化芸術を未来へつないでいくには、専門性の高い人材はもちろん、文化芸術活動を支える人材や、本市の歴史や伝統を確実に後世へつないでいく人材の育成が必要です。

本市は、これまで大学や各種専門学校など複数の高等教育機関との連携を図りながら、人材育成に取り組んできました。

今後においても引き続き、市民や大学、企業、文化施設等がそれぞれの立場において、その役割を果たし、知識や技術の習得の場や、専門性が発揮できる環境の整備を進めることで、地域全体で歴史や伝統を未来へつなぐ取組を着実に進めるとともに、文化芸術を担う創造性あふれる人材の育成を進めていきます。

- 次世代を担う人材を育成する教育プログラムの開発・提供
- 文化芸術を支える専門的人材や文化ボランティアの育成
- アーティストの育成支援、活動の場づくり
- 伝統工芸の後継者育成
- 新しい技術に対応したリテラシー※（読解記述力）教育の促進



▲森のDNA図鑑(YCAM)

4 まちや人の個性が耀き、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち

(1) 個性あふれる文化芸術による価値の創造

市民や地域、関係機関や団体等とともに、本市の個性的な文化芸術の新しい価値を創造し、まちの魅力を高めていくことで、一層のまちの賑わいや交流を創出し、市民の誇りとまちの価値を高めていきます。

- 大内文化をはじめとする重層的な歴史文化を生かした新たな価値と交流の創出
- Y C A Mの創造性を生かした新たな価値と交流の創出
- 中原中也に代表される文学者、文化人の顕彰・研究による新たな価値と交流の創出



▲山口ゆらめき回廊



▲中原中也賞贈呈式

(2) 国内外との交流の促進

歴史や文化等で関わりの深い国内外の都市との交流を促進し、連携や関係を深めることは、本市の国際化を進める上でも重要な取組です。今後においては、「人の交流」はもとより「経済的な交流」も視野に入れ、さらなるまちの発展に向けた取組を促進します。

- 大内文化を生かした交流の促進
- 歴史文化等でつながる関係自治体や創造都市との交流
- 姉妹友好都市等との文化交流の促進
- グローバル化に対応した多文化共生の取組



▲大内氏の国際性に着想した「大内ナイト」

（３）国内外に向けた情報発信力の強化

本市の歴史文化資源や文学の魅力、世界的評価が高いＹＣＡＭのアート作品などを通じて、個性的な文化芸術の情報発信力を強化していくことにより、まちのブランド力を高めるとともに、市民の文化芸術に対する誇りや愛着を育んでいきます。

- メディアやＳＮＳ等を活用した戦略的な情報発信
- 文化施設や文化財情報、ウェブサイト等の多言語化の促進
- 収蔵物や過去作品のデジタルアーカイブ※化による活用促進
- 市民へ向けたわかりやすい情報の発信
- 国内外におけるＹＣＡＭのアート作品の巡回



▲海外への情報発信を担う留学生を活用したインバウンド観光大使

（４）他分野と連携した好循環・好影響のまちづくりを目指して

文化芸術の創造性を観光や経済、まちづくりなど他分野や地域課題の解決に活用し、新たな価値や需要が創出されることにより、持続的な文化の発展と経済成長に繋がる好循環・好影響のまちづくりに向けた取組が求められています。

中長期的な視点に立った、各分野との横断的・多面的な取組や、本市が保有する歴史や自然、地場産品などの地域資源に付加価値を加えることで、まちに新たな人の流れや賑わいと交流を創出し、地域課題の解決や地域経済の活性化につながるまちづくりを進めていきます。

- 健康で文化的な生活に向けての応用
- 観光産業と連携したアートツーリズム※の推進
- 文化的景観や文化財等のユニークベニュー※としての活用
- 商店街と連携した賑わいの創出
- 地場産業のブランディングの促進
- 文化的環境を生かした移住・定住の促進



▲野田神社で実施した「LIFE--WELL インスタレーション（YCAM）」

（５）文化芸術が生み出すその先の価値の創出を目指して

本市は、常に時代の先を見据え、実験的・創造的な芸術表現を追求し、国内外に向け、発信し続けることで、新たな価値や、国内外からのアーティストや企業、関係機関との交流を生み出し、本市のブランド力の向上につなげてきました。

今後も、新たな技術や未来の課題を踏まえた次代の文化芸術の境地を引き続き開拓するとともに、これまで培った国内外の大学や企業、研究者等とのネットワークや人材交流による多様な連携・協業や、未来を見据えた人材育成を通じて、文化芸術が生み出すその先の価値の創出につながる取組を進めていきます。

- 国内外の大学や企業、関係機関、アーティスト等との連携・協業
- 創造コンテンツ※や研究成果によるビジネスの誘引
- 人材育成によるイノベーション創出や起業創業誘引への貢献
- 文化芸術の価値を創造し続ける環境づくり



▲未来の山口の運動会（YCAM）

第4章

重点プロジェクト事業

前章では、本ビジョンで目指すまちの姿「個が輝き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」を実現するため、4つの施策の基本的方向性を具体化する取組を示しました。

その上で、本章では、本計画期間中で重点的かつ戦略的に取り組む3つのプロジェクト事業を包括的に示し、展開していきます。

1 地域の輝きプロジェクト

本市を構成する各地域は、都市部、海浜部から中山間地域まで広範囲にわたっています。この多様な自然と環境のもとで、長い年月をかけて先人たちが育んできた歴史と伝統を、今日まで各地域において受け継がれています。

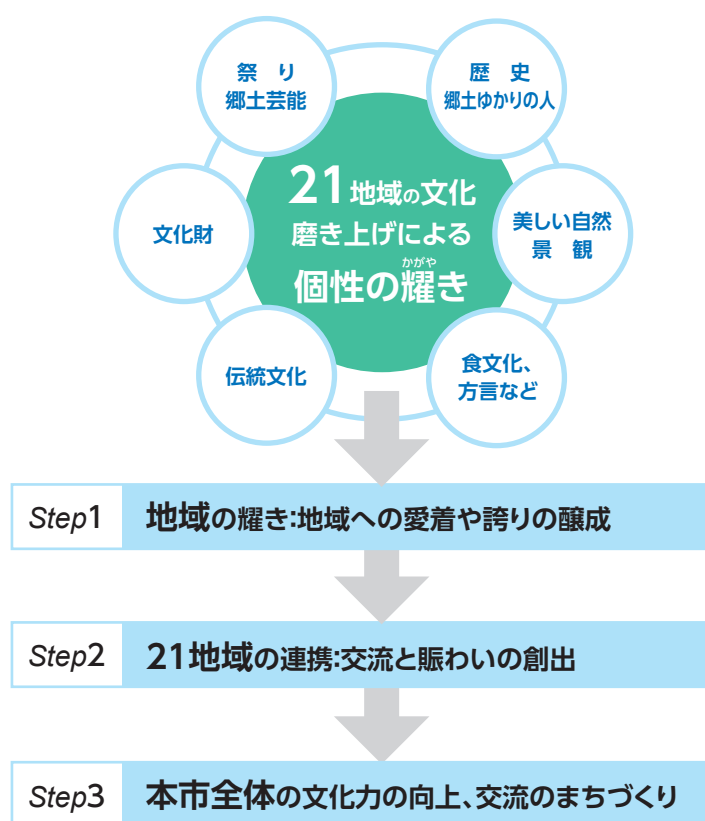
各地域に暮らす人々にとって、ごく当たり前の何気ない風景や人の温かさ、そして、その中で育まれた歴史や伝統、文化こそが、かけがえのない地域の個性であり、本市の財産です。

本プロジェクト事業では、地域や団体等が主体となり、この大切な財産にさらなる

磨きをかけ、その一つ一つを“まちの個性”として輝かせる取組を通じて、人々を輝かせ、そこに暮らす人々の誇りや愛着を醸成していきます。

また、大学や関係機関、地域おこし協力隊などの、知識や人材を活用し、新たな感覚や視点で、地域の人々とともに、新しい魅力を引き出し、高め、情報を発信していきます。

このような取組を通じて、地域の賑わいや交流を創出し、さらには、本市全体の魅力や文化力の向上につなげていきます。



21 地域の魅力あふれる地域資源や取組



▶ (左上から)【大殿】鶯の舞、【白石】祇園祭、【湯田】歴史ウォーク（龍泉寺）、【仁保】ヘルシーウォーキング（帰郷庵）、【小鯖】小鯖代神楽、【大内】大内史跡探訪会の史跡巡り、【宮野】岡の原神神祭の長持行列、【吉敷】吉敷大峠の整備、【平川】「郷土史ふるさと平川」の刊行、【大蔵】交流列車大蔵まつり、【陶】腰輪踊、【鎗銭司】古地図散歩（大村神社）、【名田島】ふるさと探訪ウォーキング（名田島南蛮樋）、【二島】兜山古墳の清掃、【嘉穂】地酒「嘉穂の郷」づくり、【佐山】須川の山国め神事、【小郡】山頭火俳句&ウォーク、【秋穂】シェ・アイオ、【阿知須】十七夜祭、【徳地】人形浄瑠璃、【阿東】阿東産パンプバイク活用に向けた取組

2 次世代の芽吹きプロジェクト

現在、少子高齢化や第4次産業革命※といわれる時代の変革期を迎える中で、歴史や文化芸術に新たな息吹を吹き込み、新しい価値を創造する暮らしを育むなど、次世代育成に取り組むとともに、それを未来へつないでいくことが重要となっています。

このため、本市においては、重点的な取組として、中長期的な視点から、地域や文化団体、関係機関等と連携し、次代を担う人づくりや環境づくりに取り組めます。

(1) 次代を担う人づくり

① 歴史や伝統を未来へつなぐ人づくり

少子高齢化が進む中、本市においても郷土芸能の担い手や伝統文化の後継者育成が喫緊の課題となっていることを踏まえ、子どものころから、地域の歴史や祭り、また、本市の個性的な文化芸術に触れ、感性や創造性とともに地域への愛着や誇りを育む取組や、地域の歴史文化を守り育てていく人材の育成を、市民や地域、学校などがそれぞれの役割を持ちながら、本市全体で推進していきます。

特に、無形文化財や伝統工芸などは、次代に本市の歴史文化を伝える上で、重要な地域資源です。まずは、市民がその価値を知り、鑑賞や体験、保存に際して、その活動を支援することで、持続的な次世代への継承に向けた取組を進めていくことが重要であることから、本市に受け継がれた無形文化財や伝統工芸等の価値を市民に周知する機会を提供するとともに、大学や関係機関等と連携し、情報発信や後継者の育成につながる取組を進めていきます。



▲山口鶯流狂言保存会の活動

② 創造性豊かな人づくり

室町時代、国内にとどまらず東アジア世界との交流を積極的に進めた領主の大内氏が、雪舟をはじめとした文化人や多様な文化を受け入れ、大内文化を花開かせたように、本市には教育や文化芸術に対して、寛容な心と新たな文化や人を育む風土が受け継がれています。

こうした流れを受け継いで、YCAMが平成15年の開館以降、取り組んできた実験的・創造的な取組により、市民の創造性が育まれるとともに、文化的な思考が浸透しつつあります。



▲コロガル公園 commons (YCAM)

また、世界が注目する最先端のアートや創造的なワークショップは、子どもたちにとって、暮らしの中のごく当たり前の風景として息づいています。

本市では今後も、グローバル化が進展し、テクノロジーが次々と生み出される中で、技術開発力や応用可能性への研究力を高め、教育現場や地域との連携、さらには世界との交流を進め、未来を担う子どもたちの柔軟な発想や創造性を育てていきます。

また、文化芸術を支え、アートと暮らしをつなぐ人材や、イノベーション創出に貢献できる創造的・専門性の高い人材の育成を図ります。

③ 新進芸術家の育成

本市は、芸術家を育成支援する取組の中で、「やまぐち新進アーティスト大賞」を平成19年に創設し、才能ある新進アーティストを発掘し、創作活動の奨励や展覧会の開催を通じて、育成支援を行ってきました。多様な領域で活動する歴代の受賞者は、受賞をきっかけに知名度を向上させ、国内外に活躍の幅を広げています。

今後も、こうした取組を継続することで市内のアーティストの活動支援に努めるとともに、アーティストバンク※の設置やネットワークの構築を図ることで、持続的な創造活動の場づくりやア



▲アーティストによるトークショー（やまぐち新進アーティスト大賞10年展）

ティストの才能や創造性が発揮される仕組みづくりを進めます。

(2) 創造的な暮らしを楽しむ環境づくり

本市には、長い歴史と豊かな自然に培われた文化が、暮らしの中に脈々と受け継がれています。その暮らしは、わが国の経済の発展とともに、多様なライフスタイルを生み出し、暮らしの質にも変化をもたらしているものの、市民の暮らしを豊かなものとして継続していくためには、日々の暮らしの中に文化的価値が定着し、市民の意識の中に本市独自の文化性がしっかりと根付いていくことが必要です。

自然志向や健康的な生活に対する関心が高まる中で、市民の文化的な暮らしを将来にわたって実現していくためには、日々の生活や文化芸術に触れる機会を通して、四季折々の風景の美しさや音色など身近にある文化的価値に気づき、その価値に心が満たされる感性を育むことが重要です。

このため、本市では、市民が日々の暮らしの中で、喜びや感動を覚える文化的素養を育むため、子どもから大人までのあらゆる世代において、音楽、文学、絵画、彫刻、工芸はもとより、メディアや科学技術に至るまでの幅広い分野における文化芸術活動に触れることのできる機会の創出を図り、市民の感性が自然な形で育まれ、本市の個性として定着していくまちづくりを進めます。

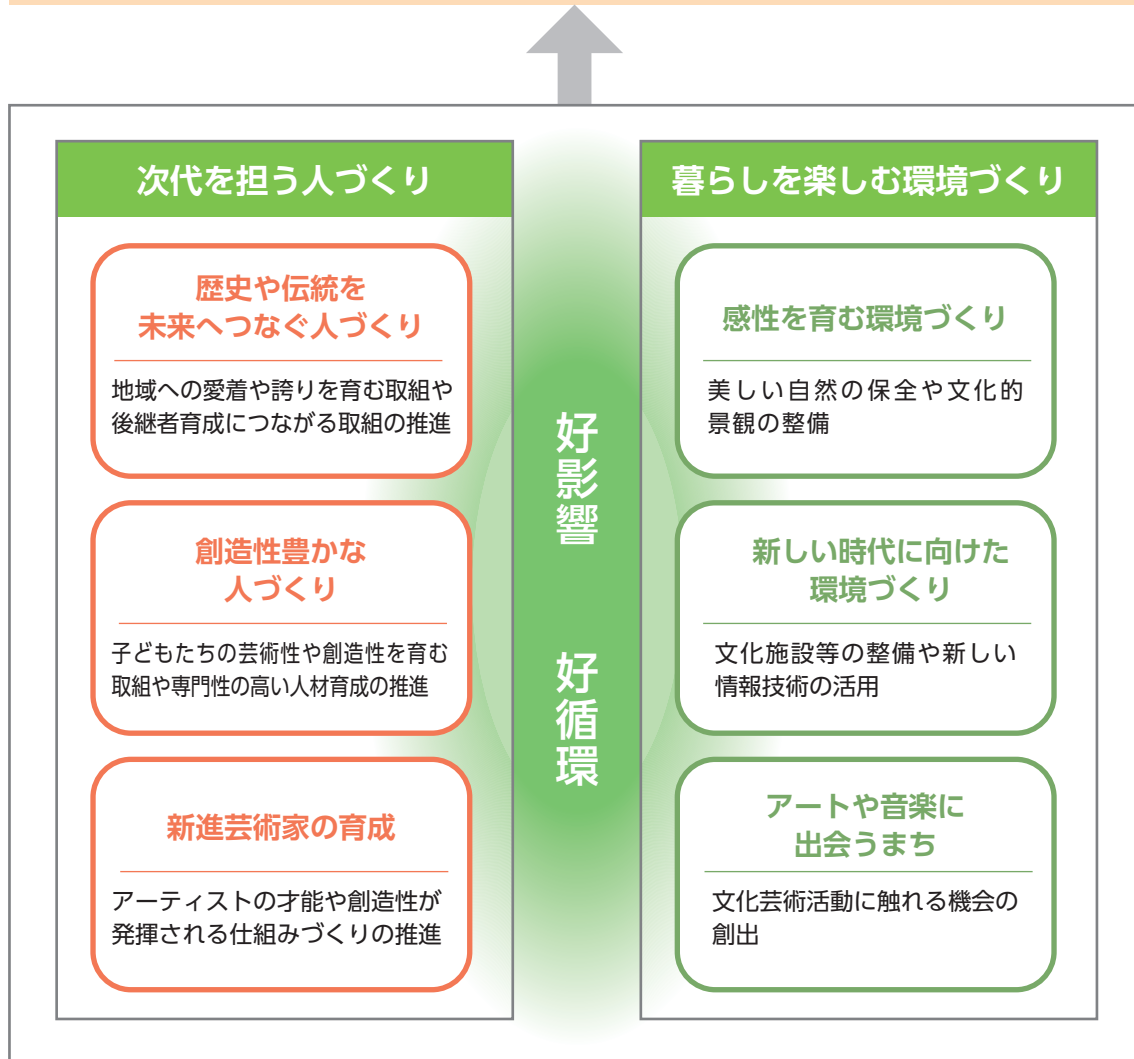
また、緑豊かな街路や公園、歴史的景観や文化的な公共空間、山口市民会館をはじめとする文化施設など、市民文化創造の場や学びの場の環境整備を進めることで、市民が日常生活の中で音楽やアートなどの文化芸術と出会い、様々な創造活動が生み出される、文化芸術と暮らしが融合したライフスタイルが創造される環境づくりに取り組みます。



▲アートパフォーマンスと彩られた山口市民会館の中庭（山口文化協会創立50周年記念事業）

次世代の芽吹きプロジェクト

新しい時代を支える人と暮らしの創造



▲やまぐち新進アーティスト大賞受賞者によるワークショップ



▲子や孫へ受け継ぐ地域文化の伝承（秋穂八十八ヶ所霊場御大師まいり）



▲真夏の夜の星空上映会（YCAM / 中央公園）

3 賑わい創出に向けた 文化的価値の向上プロジェクト

本市は、歴史や文化を背景とした景観や文化財、文化施設などの地域資源、また、緑豊かな文化的空間を保有しており、その文化的価値を観光交流におけるコンテンツとして、情報発信し、交流と賑わいの創出に努めてきました。

これに加え、YCAMを中心とした創造的な取組や人材育成の取組を通じて、国際的なシンポジウムの開催や専門的なワークショップの開催など、本市の新しい価値や個性を創造することで、世界を魅了し、国内外の大学や企業、関係機関とのネットワークを構築し、新たな人の流れを創出するなど、本市の価値を高めてきました。

また、令和3年に、山口市産業交流拠点施設の交流機能として設置される多目的ホールのオープンにより、新山口駅を起点としたさらなる文化交流の拡大が期待されています。

こうした中、本市の文化的価値を、賑わいと交流の拡大につなげていくためには、ターゲット層を明確にしたコンテンツづくりと市民とともにまちの魅力を高め、ブランド化を進めるなど個を磨き、それぞれがつながることで、文化的価値とまちへの愛着を高めていく必要があります。

そのため、本プロジェクトにおいては、ユニークベニューといわれる、歴史的建造物や公園などの文化的空間で特別感や地域特性を演出する新しい活用を提案するなど、個々の地域資源等の特性や立地環境を最大限生かしながら、市民とともに、周辺施設や地域資源と一体となった魅力の創出を進めます。

また、多様なコンテンツを組み合わせることにより、面的な広がりや文化的魅力のさらなる向上及び情報発信に取り組み、本市が誇る個性を国内外へ戦略的に印象づけ、賑わいと交流の拡大につなげていきます。



▲ユニークベニューの例（洞春寺で開催されたコンサート）

賑わい創出に向けた 文化的価値の向上プロジェクト





第5章

推進にあたって

時代は今、豊かな未来社会「Society5.0」の実現へ向け大きく動き始めました。

A I や I o T※、5 G※などの最新技術の応用による、新たな表現や創造的な文化芸術が、次々と生み出される未来に向けて、私たちは、これまで先人が、それぞれの時代において、多様な価値観と時代の潮流を捉え、築き上げてきた文化を守り発展させてきたように、受け継がれてきた重層的な歴史や、緑あふれる環境に誇りと愛着を持ちながら、新たな文化芸術の創造に取り組むとともに、柔軟な発想を持った、次代の文化芸術を担う人材の育成に努めていく必要があります。

こうしたことを踏まえ、本市の文化施策の推進にあたっては、主体である市民や地域、文化団体、事業者、行政等が共通の認識を持ち、連携を深めながら協働で取り組んでいく「連携と協働の視点」、また、あらゆる施策に文化的な視点を取り入れていく「総合的施策推進の視点」、さらには、国内外との交流や新たな価値を生み出す「質の高い文化芸術創造の視点」など、前ビジョンで掲げた3つの視点を受け継ぎながら、次世代の芽吹きにつながる「未来を見据えた人材育成の視点」を加えた4つの視点を持って進めていきます。

本市におきましては、現代に生きる市民や地域等、多様な主体とともに、先人が守り、脈々と受け継がれた文化に、多様な交流や新しい時代の暮らしの中で育まれる、令和の時代の新しい色を織り交ぜながら、本市の目指すまちの姿である「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」の実現に向け、取り組んでいきます。

1 取組への視点

○連携と協働の視点

文化施策の推進にあたっては、市民や地域、文化団体と行政等が有機的に連携し、一体となって取組を進めるとともに、課題解決を図っていく必要があります。

市民一人ひとりが、文化芸術を享受し、次世代が芽吹き、未来へつながる取組を、様々な活動主体がそれぞれの役割と自覚を持ち、情報を共有し、互いの自主性を尊重しながら、連携と協働により取り組みます。

○総合的施策推進の視点

国が定める文化芸術基本法においては、文化芸術が持つ創造性を観光やまちづくり、福祉、教育、産業など幅広い分野に取り入れ、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化の継承や発展、創造につなげていくことの重要性が示されました。この文化的な視点を本市のあらゆる施策に取り入れることは、地域の課題解決はもちろん、まちの個性や魅力を高め、交流人口の増加や暮らしの質の向上につながることから、関係機関との情報の共有に努め、文化施策の総合的な推進を図ります。

○質の高い文化芸術創造の視点

本市は、これまでも文化政策を都市政策の柱として、質の高い文化芸術創造の視点を持って、まちづくりを進めてきました。その結果、大学や研究機関などと多様なネットワークを構築し、観光や教育など他分野へ本市の文化芸術の価値を波及させることにより、まちの個性の創出につなげてきました。

引き続き、質の高い文化芸術創造の視点を持って、文化施策を推進することにより、市民や大学、研究機関等、多様な交流から生み出される新たな価値の創出や、都市のブランド力の向上に向けた取組を進めます。

○未来を見据えた人材育成の視点

文化創造の源となるのは人であり、地域への誇りや愛着を育む地域アイデンティティです。地域アイデンティティは、未来を見据えた人材育成に向けて、先人たちの息吹や歴史の重みを受け継ぎ、地域資源を活用した創造活動を支え、育む取組につながり、地域の個性を耀かせ、文化を発展させるための基盤となるものです。

また、「Society5.0」の実現など、次代のまちづくりに向けて、時代が大きく変化する中で、人の豊かな感性とともに、新しい技術や知識の応用など柔軟な発想力を持った人材が求められています。

このように本市の歴史や文化芸術に誇りや愛着を持ち、活動を支え、育み、文化芸術を創造する人材を、地域全体で育てていくことの重要性や必要性を改めて共有し、地域や教育機関、文化施設等、多様な主体の連携のもと、未来を見据えた積極的な取組を進めます。

2 主体別の役割

○市民

文化芸術活動や取組の主役は市民です。美しい景観づくりや地域の祭りや伝統行事、文化事業等への参加や運営に主体性をもって取り組みます。

また、文化芸術に関心を持ち、文化芸術を楽しむ暮らしを育みます。

○地域

美しい景観やまちなみの保存・継承に努め、地域資源を磨き上げ、発信・交流することで、文化芸術を通じた地域への愛着や誇りの醸成を図ります。

また、地域の歴史や郷土文化を教え合い、学び合うことで世代間交流を進め、地域文化の継承や後継者の育成に取り組むとともに、あらゆる人々の文化活動を地域全体で支えます。

○文化団体

文化団体が自らの特色を生かしながら、様々な創造活動や情報発信に努めるとともに、学校や地域、文化施設等と連携し、文化に触れる機会の創出や、次代を担う人材育成に取り組めます。

また、本市の地域資源を活用した創造活動や他団体との連携などにも積極的に取り組みます。

○事業者

市民や地域の文化活動を支援・協力するとともに、事業者の技術や知見、空間を活用し、地域や教育機関、文化施設等と連携した教育普及活動やPR活動に努めます。

伝統産業事業者については、技術のさらなる向上に努めるとともに、事業者間で連携・協力し、長い歴史の中で受け継がれた技術を後世に引き継ぐため、人材育成や販路拡大に努めます。また、市や教育機関、観光産業等と連携した体験活動や魅力の向上、情報発信に努めます。

○アーティスト

新しい芸術表現の追求や技術の向上を目指し、本市を拠点に広く創作活動や発表活動に取り組むことを通して、市民とアートをつなぎ、文化に触れる楽しさや魅力、文化が暮らしにもたらす価値や豊かさを市民と共有します。

○山口市出身者やゆかりのある人・団体・事業者等

本市の取組を応援し、やまぐちの豊かな自然や歴史、伝統、個性あふれる文化芸術の魅力を全国に発信することで、本市のファンや来訪者、移住・定住者など、関係人口※の増加に貢献します。

○教育機関

多様な文化施設や教育機関が集積する本市の強みを生かし、地域や関係機関と連携した特色ある教育プログラムの開発や活用により、初等教育機関から高等教育機関までが取り組むことにより、地域の個性を生かした人材の育成に努めるとともに、文化芸術を通して若者が土地に根付くよう、地域への誇りや愛着を育みます。

また、それぞれの教育機関が有する人材の知的財産を生かした、多様な世代が文化芸術を通して学びを深めるための教育普及活動やリカレント教育※を推進するとともに、関係機関等と連携し地域課題の解決に向けた取組に努めます。

○文化施設

あらゆる人々が文化芸術に触れ、親しみ、創造する環境づくりや文化的な空間づくりに努めるとともに、施設の特色を生かした鑑賞機会の提供や、戦略的な創造事業、教育普及事業を展開します。また、教育機関、文化団体、他の文化施設、企業等とも連携し、多彩な事業を実施する中で、ネットワークの構築・強化を図り、相互の連携を踏まえた事業展開や、専門的人材、ファシリテーター※、ボランティアスタッフなど、文化を支える人材等の育成に取り組めます。

○行政

関係機関との連携をとりながら、あらゆる人々が日々の暮らしの中で、喜びや感動を覚える文化的素養を育む環境づくりや次代を担う人材育成、文化芸術の創造性を生かしたまちづくりに取り組めます。また、市民や地域、国内外の企業や関係機関、アーティスト等の交流や創造性が発揮できる環境づくりや仕組みの構築に努めます。

また、先人が守り、今日まで受け継がれてきた伝統や地域文化が、しっかりと未来に引き継がれるよう、市民や地域、関係団体等、多様な主体とともに、歴史や文化的価値を伝えながら、本市の財産が、市民に愛され、未来につながる取組を進めます。

さらに、本市が有する文化的な魅力を国内外に向けて、積極的に発信するとともに、国内外の多様な交流を進め、まちの価値の向上や文化芸術を通じた市民の誇りの醸成に努めます。



参 考 資 料

〇文化政策に関わりのある施設

(50音順)

文化を伝える様々な施設	嘉村磯多生家（帰郷庵）
	旧中川家住宅（阿知須いぐらの館）
	其中庵
	十朋亭維新館
	重源の郷
	山口市菜香亭
	山口ふるさと伝承総合センター
文化会館・類似施設	阿知須健康文化センター（フィッカルあじす）
	維新百年記念公園野外音楽堂（ビッグシェル）
	クリエイティブ・スペース赤れんが（C・S赤れんが）
	蔵目喜ふれあいセンター
	ニューメディアプラザ山口
	山口県教育会館
	山口県婦人教育文化会館（カリエンテ山口）
	山口市大海総合センター（らんらんどーム）
	山口市小郡ふれあいセンター
	山口市児童文化センター
	山口市徳地文化ホール
博物館・美術館・資料館 文学館・図書館・類似施設	山口市民会館
	山口南総合センター
	きらら浜自然観察公園
	鑄銭司郷土館
	中原中也記念館
	山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
	山口県政資料館
	山口県点字図書館
	山口県埋蔵文化財センター
	山口県文書館
	山口県立大学附属郷土文学資料センター
	山口県立大学附属図書館
	山口県立美術館
	山口県立山口図書館
	山口県立山口博物館
	山口市秋穂歴史民俗資料館
	山口市小郡文化資料館
	山口市徳地文化伝承館
	山口市歴史民俗資料館
	山口市立秋穂図書館
	山口市立阿知須図書館
	山口市立阿東図書館
	山口市立小郡図書館
	山口市立中央図書館
	山口市立徳地図書館
	山口情報芸術センター（YCAM）
	山口大学総合図書館
	山口大学埋蔵文化財資料館
	私設の資料館・画廊など
その他施設	湯田温泉観光回遊拠点施設（狐の足あと）
	各地域交流センター
	山口市産業交流拠点施設（令和3年オープン予定）

山口市文化振興ビジョン検討懇話会設置要綱

(目的)

第1条 山口市文化振興ビジョン（以下「ビジョン」という。）の策定に関し、広く市民の意見を聴くことを目的として、山口市文化振興ビジョン検討懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 懇話会は、ビジョンの策定に関する諮問に対して調査研究し、提言、提案するものとする。

(委員)

第3条 懇話会の委員は、15名程度とする。

2 懇話会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 文化に関する有識者
- (3) 教育、経済団体関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、市長が委嘱した日から平成32年3月末日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 懇話会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、懇話会を代表し、会議を取りまとめる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。

(専門部会)

第7条 文化政策に関する将来を見据えた戦略的な取り組み等について、専門的見地から審議を行うため、懇話会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の委員は、市長が委嘱する。

3 専門部会には、市長が指名する部会長及び部会長の指名による副部会長を置く。

4 部会長は、専門部会を代表し、会議を取りまとめる。

5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(庶務)

第8条 懇話会の庶務は、交流創造部文化交流課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年3月1日から施行する。
- 2 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

○山口市文化振興ビジョン検討懇話会委員名簿

(50音順)

氏名	役職等	備考
足立 明 男	山口情報芸術センター顧問	
磯 村 勇	山口市小学校校長会代表（山口市立大殿小学校）	
大庭 達 敏	（一財）山口観光コンベンション協会理事長	
河野 康 志	山口商工会議所会頭	
斎藤 郁 夫	山口県立美術館学芸参与	
鈴木 啓二郎	現代美術作家、第10回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者	
津 田 隆	おごおり文化協会会長	
山崎 伸 介	山口市中学校校長会代表（山口市立鴻南中学校）	平成31年3月31日まで
時 乗 順一郎		平成31年4月1日から
中野 良 寿	山口大学教授	
中原 豊	中原中也記念館館長	
広田 早 苗	創作舞踊家	
前田 哲 男	山口県立大学教授	会長
松原 清	山口文化協会会長	副会長
松前 了 嗣	防長史談会山口支部支部長	
大和 保 男	山口県指定無形文化財萩焼保持者	
山本 有 希	NPO法人こどもステーション山口理事長	
米本 太 郎	山口鷺流狂言保存会	

○山口市文化振興ビジョン検討懇話会専門部会委員名簿

(50音順)

氏名	役職等	備考
小柴 満美子	山口大学准教授・ものづくり創成センター副センター長	
小山 哲 彦	大内文化街道まちなみ協議会会長	
菅 沼 聖	山口情報芸術センター 学芸普及課 課長補佐	
梶 山 由 一	鑄銭司郷土館館長	
鈴木 克 彦	（一財）山口観光コンベンション協会専務理事	
中野 良 寿	山口大学教授	会長
広田 早 苗	創作舞踊家	副会長

○策定経過

年 月 日	内容
平成29年8月23日	「(仮称)第二次山口市文化振興ビジョン策定方針」素案作成
平成29年11月22日～12月15日	山口市の文化によるまちづくりに関する市民アンケートの実施
平成30年3月15日	「(仮称)第二次山口市文化振興ビジョン策定方針」決定
平成30年10月24日	第1回山口市文化振興ビジョン検討懇話会開催
平成30年12月18日	山口市文化振興ビジョン検討懇話会 第1回専門部会開催
平成31年1月29日	山口市文化振興ビジョン検討懇話会 第2回専門部会開催
平成31年3月11日	山口市文化振興ビジョン検討懇話会 第3回専門部会開催
平成31年4月16日	山口市文化振興ビジョン検討懇話会 第4回専門部会開催
令和1年5月29日	第2回山口市文化振興ビジョン検討懇話会開催
令和1年8月9日	第3回山口市文化振興ビジョン検討懇話会開催
令和1年10月25日	第4回山口市文化振興ビジョン検討懇話会開催
令和1年12月23日	第5回山口市文化振興ビジョン検討懇話会開催
令和2年1月27日	経営会議開催「山口市文化創造ビジョン(案)」
令和2年2月12日～3月13日	「山口市文化創造ビジョン(案)」に対するパブリックコメントの実施
令和2年3月31日	「山口市文化創造ビジョン」策定

○ 用語説明

(50音順)

用語	説明	初出ページ
アーティストバンク	新進芸術家を登録し、その活動を支援する仕組み。	35
アートツーリズム	美術館などの展示施設や、野外彫刻などの芸術作品を巡ることで、地域の文化に触れる観光活動。	30
I o T	Internet of Thingsの略で「モノのインターネット」と訳される。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続するなど相互に通信することにより、相互に制御する仕組みである。	40
アウトリーチ活動	公共機関や専門家、関係機関が、一般社会に向け、分かりやすく親しみやすい形で教育普及や啓発を行う活動。現場出張サービスなどの意味で多用される。	25
アプローチ	対象とするものに迫ること。また、その方法。	39
案内サイン	案内標識のこと。	11
イノベーション	新しい技術の発明だけではなく、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革のこと。	2
インバウンド	内向きに入ってくるという意味であるが、主に外国人の観光客を指す言葉として使われる。	11
WE B	インターネット上の様々な情報（テキスト・画像・動画など）を関連付け、結びつけるシステムのこと。	11
A I	Artificial Intelligenceの略で、人工知能と訳す。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。	15
S N S	Social Networking Service の略で、インターネットを介して、社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築可能にするサービス。	11
オープンエリア	一定の会場を設置するのではなく、開かれた地域を会場として見立てること。	3
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指す。	43
ギャラリー	美術品を展示する施設や画廊等を指す。	12
協働	一般に協働とは、複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。本ビジョンでは市民と行政がまちづくりの目標を共有し、お互いの特性を発揮して、より良いものをともに創りあげていく行為や行動のことを協働と呼ぶこととする。	2
蔵敷	年貢物を輸送する際に一時的に納めておく建物や敷地。	1
グローバル化	一般的には、人・もの（資本）・お金などが、情報通信技術の発展や交通手段の発達とあいまって、タテ割りの地域や国境を越えて自由に行きかう状態を示している。	10
コンテンツ	内容。中身。	31
シビックプライド	都市に対する市民の当事者としての主体性意識を持った誇りや愛着のこと。	はじめに
攘夷	外敵を追い払って国内に入れないこと。	1
進取の気風	先進性・先見性・寛容性・独自性・国際性など「大内文化」の根底を流れている精神性。	はじめに
人生100年時代	世界で長寿化を急速に進み、先進国では2007年生まれの2人に1人が100歳を超えて生きる時代が到来するという考え。	はじめに

用語	説明	初出ページ
成熟社会	物質万能主義の大量消費社会に替わり、高水準の物質文明と共存しつつも精神的な豊かさや生活の質の向上を優先させるような、平和で自由な社会のこと。	17
創造都市	文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市のこと。	4
Society（ソサエティ）5.0	狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。	はじめに
セカンドステージ	（特に定年後の）第二の人生のこと。	15
杉出し	材木を山から切り出すこと。	1
第4次産業革命	AIやIoTなど多岐にわたる分野においての新興の技術革新のこと。	34
テクノロジー	科学技術。また、それを利用する方法論の体系。	14
データベース	集めたデータを、あとから検索しやすいように分類、蓄積すること。	8
デジタルアーカイブ	有形・無形の文化資源等をデジタル処理して分類・整理して保存した記録のこと。	29
5G	第5世代移動通信システムのこと、5th Generationの略。1G、2G、3G、4Gに続く無線通信システムのこと、前世代に比べ高速かつ大容量の通信の実現が図られる。	40
ファシリテーター	ワークショップを進めていくときにその進行を円滑にし、目的を達成できるよう、中立的な立場から働きかける役割を担う人のこと。	43
プラットフォーム	土台となる環境や基盤。本ビジョンでは、情報が集積し、整理される場、あるいは、人が集まり、交流が行われる場、活動が展開されていく拠点・基盤をいう。	2
ブランディング	ブランドを認識させるための活動全般のことをいう。	2
ブランド	ある財・サービスを他の同種の財やサービスと区別するための概念。価値あるもの、信頼されているものとして認識されるイメージ、総体。	19
ポテンシャル	潜在的な力。可能性としての力。	19
メディア	新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体のこと。	10
ユニークベニュー	会議やイベント等を開催することで特別感や地域特性を演出できる会場（美術館・博物館・歴史的建造物や、文化施設等）のこと。	30
ライフスタイル	生活の様式。人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。	はじめに
リカレント教育	義務教育の修了後、生涯にわたって教育と他の諸活動（労働、余暇など）を交互に行う教育。「学校教育」を、人々の生涯にわたって、分散させようとする理念。	43
リテラシー	与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。応用力。	26
ワークショップ	体験型講座。	10

編集・発行

令和2年（2020年）3月

山口市交流創造部文化交流課

〒753－8650

山口県山口市亀山町2番1号

T E L 083－934－2717

F A X 083－934－2670

e-mail bunka@city.yamaguchi.lg.jp